

ちつご短歌 応募作品一覧

- 一. 故郷の出生数を増やすため政策に凝る役所の妙案 (K.H)
- 二. 長いこと忘れてた恋思い出すきっかけくれた恋の木神社 (A.M)
- 三. 筑後市の久留米餅がかもし出す日本文化の季節感覚 (T.N)
- 四. 船小屋で炭酸泉に砂糖入れ一気に飲み干す暑き夏の日 (Y.T)
- 五. 山梶窩に尊皇の士を生む真木氏身は山梶くちなしに窶やつれようとも (K.Y)
- 六. ガラ悪く赤で止まれば後ろから追突される地獄の筑後 (Y)
- 七. この街に生まれて生きてこの日まで二人の恋は光るプラチナ (S.H)
- 八. 大空に流れる雲を今日も撮る句点のような深呼吸して (あさのつき)
- 九. ホークスを役所みんなでラブコール至る所で応援歌聞く (朝顔)
- 一〇. 筑後市の妻の実家へ通う道幅は広がり行き来便利に (蒲公英)
- 一一. 元気かなとても素直なかわいい子ルームメイトは筑後出身 (伊都)
- 一二. 縁結び神社の庭に立つ少女夢のあふれるその横顔を (Y.K)
- 一三. 手を引いて卒寿の母と眼鏡橋数歩あゆみて頂きに休む (J.K)
- 一四. 君に聞く筑後の良いところ尋ねれば梨やいちごと食べ物ばかり (S.N)

ちつご短歌 応募作品一覧

- 一五. 引越して知らない町に慣れなくて筑後の人に助けられてる (M.K)
- 一六. 有明に羽犬塚から乗っていた今や懐かし特急の駅 (風信子)
- 一七. 公園を家族みんなでウォーキング梅と桜と鴨に魅せられ (侘助)
- 一八. 筑後市は自然に溢れ星きれい空を見てると癒される町 (M.K)
- 一九. 永遠の十歳はね丸筑後古希パネコ・ポネコの双子恋する (M.K)
- 二十. 里山に白い賑わい梨の花春の訪れ筑後に知らせ (T.N)
- 二一. 今日ひと日一生懸命生き抜かむ筑後の山茶花咲く頃までは (M.N)
- 二二. タマホーム建てて嬉しき筑後市の家でのんびり大の字になる (Y)
- 二三. 夕間暮れ風を集めて走り去る緋の里の一両列車 (R.U)
- 二四. 沖端川秋の汀みぎわに波寄せて白鷺の羽ひたひた濡らす (S.N)
- 二五. 里人が見上げる筑後余り足る銀杏ぎんなんの実に初雪降り積む (N.I)
- 二六. 筑豊と一字違っただけなのになぜか都会に感じた筑後 (伊都)
- 二七. 恋の国憧れて来た結婚し彼と結ばれ夫婦仲良し (M.K)

ちつご短歌 応募作品一覧

- 二八. 筑後市は自然に溢れ星きれいかちがらすいて空気がきれい (M.K)
- 二九. 煌々と闇夜に映ゆる修正会しゅじょうえの火うつつよに現世の安寧を請ふ (K.Y)
- 三十. 五月晴れ八女茶の新芽埋め尽くし筑後の原が緑に染まり (T.N)
- 三一. 梨棚を見上げて稚児は手を伸ばす言葉は無くも思いは見えて (N.N)
- 三二. 藍染の久留米緋の風合いは使い込むほど味わいを増す (K.Y)
- 三三. 恋の木に引かれ参拝くり返す恋参道を夢見る乙女 (桔梗)
- 三四. 懐かしや夏の思い出舟小屋で家族でみてた夜空の花火 (ツキヤマ)
- 三五. 梅雨明けに緑のイ草刈り取られ日本文化の畳になりて (T.N)
- 三六. 新刊の本をお供に飲む八女茶やめられないの本も八女茶も (H.O)
- 三七. 筑後市の琴を嗜む妻だから爪の弾きも心好きかな (水仙)
- 三八. 鷹愛が昂じて第二の本拠地も故郷のように愛してしまう (Y.K)
- 三九. あさ露の野道ふみしめみあげればねむの花香に心をつつむ (ぼっち散歩)
- 四十. 思い出す遠い夏の日舟小屋の夜空一面煌めく花火 (さちよば)

ちっご短歌 応募作品一覧

- 四一. 正月に松明燃やす追儼祭地域伝統熱く燃えてる (月見草)
- 四二. 威容かな恋木の社まほろぼの一条礼大樹斎くをり (C.T)
- 四三. ちっごさい来んね来んねち言わっさっ恋のくにけんよかとこやろの (Y.H)
- 四四. 釣り上げてキンブチ鮎は掌に躍る赫然として身を翻し (K.Y)
- 四五. 鎌首に肝を冷やした畔はどこ風にゆらめく双堤の緑 (白寂)
- 四六. 青空を力いっぱい吸いこんで君に届けよ心晴れよと (T.M)
- 四七. ひやひやと始まる句にも漱石の破滅の暗示船小屋二階に (K.I)
- 四八. 悠々と懐深き筑後川亡き父母の香が我が頬を撫で (Y.I)
- 四九. 本場にも並ぶ筑後が産む八女茶香り豊かに味はまるやか (K.Y)
- 五十. 清水山ゆ湧きでる雲に妻の手を握る漱石の指のペンだこ (K.I)
- 五一. 四声で歌い始める筑後川「愛」の言葉に眼を潤ませて (Y.I)
- 五二. はね丸の青き翼に秀吉と筑後の愛乗せ今日もお掃除 (K.I)
- 五三. いつの世も泰然自若筑後川雲は鱗に鰭に鯖に (Y.I)

ちつご短歌 応募作品一覧

- 五四. 誕生日に妻のくれたる贈り物筑後市産の久留米餅よ (K.I)
- 五五. 羽犬塚駅駐車場にて待っている我が軽トラよさあ帰ろうか (K.N)
- 五六. いにしえに漱石も来た船小屋の鉱泉場を妻と訪う (K.I)
- 五七. 稚児風流久留米餅に五穀幸矢部の水にて牛もイグサも (N.S)
- 五八. 各地の茶いろいろ飲めど八女茶こそ優しく深みある旨き味 (K.I)
- 五九. 天空に一万五千筑後川うつる花火も一万五千 (H)
- 六十. なんかさあここがチクチクすんだよね息子よそれを青春という (胸一杯太郎)
- 六一. 言の葉の青き繁茂に囲われしトンネルくぐれば知の海が見え (R.O)
- 六二. やけてるねーハワイ？沖縄？んなアホな遮るものない西陽の強さよ (胸一杯太郎)
- 六三. 縁側で一人しみじみ酒を飲む自満の池に月忍び寄る (M.K)
- 六四. 校庭でボール追う君向こう側一瞬で通る涼やかなつばめ (オーガニックおばさん)
- 六五. 船小屋は鉄分多き美人の湯ゆったりつかりお肌ピチピチ (M.K)
- 六六. 生れきて大地に向い根をおろせ花は咲く咲くさざんかの花 (M.K)
- 六七. 人々の幸せ願う大輪が夜空を照らす船小屋花火 (M.K)

ちつご短歌 応募作品一覧

- 六八. 矢部川の岸边に竿を差し出して余暇のひととき釣を楽しむ (M.K.)
- 六九. 人々の願いを込めし火柱らが夜空をこがす熊野火祭り (M.K.)
- 七十. 筑後路を藍(愛)で織りなす着物きて二人で参る恋の木神社 (M.K.)
- 七一. 筑後の地梨にぶどうにいちごあり豊かな里に集う人々 (M.K.)
- 七十二. 矢部川で息子と二人釣をする父より多い自満の笑顔 (M.K.)
- 七三. 通学路誘導員のおじさんに子等のあいさつ大きく響く (M.K.)
- 七四. 矢部川の橋のたもとで見る月は川辺のもやで遠くにかすみ (M.K.)
- 七五. 窓ヶ原白球追いし少年が夏さわやかにドリンクを飲む (M.K.)
- 七六. さざんかに水をそそいで目をやれば青空に舞う白き綿雲 (M.K.)
- 七七. 矢部川の清き流れにゆらゆらと川面で遊ぶ黄色満月 (M.K.)
- 七八. 杯に月を忍ばせしみじみと心もすけし筑後酒を飲む (M.K.)
- 七九. 筑後麺色は白くて腰がある私も食べて柳腰かな (M.K.)
- 八十. 楠の木の根っこに座りお弁当今日の幸せ心にきざむ (M.K.)

ちつご短歌 応募作品一覧

- 八一. 苦しきも楽しき時も家族あり流れる時節人生ロマン (M.K.)
- 八二. かささがきが巢をつくれどもつがい無し鳴く声さびし響く筑後路 (M.K.)
- 八三. 人として厳しく生きよ道示す祖母の横顔今も忘れじ (M.K.)
- 八四. 若者が決意新たに夢かたる未来は開く筑後の空に (M.K.)
- 八五. 晴れわたる矢部川沿いの満月は川辺のもやで遠くにかすみ (M.K.)
- 八六. 祖母からの教えは今も生きているならぬ堪忍するが堪忍 (M.K.)
- 八七. 田んぼから吹きくる風が心地よい筑後で過ごす夏の夕暮れ (Y.M.)
- 八八. 筑紫路は耳納を抱きて下野となし大川下りて有明に継ぐ (和火花)
- 八九. かの君に筑紫のカスリ贈らん七夕の夜か恋木の路 (一路)
- 九十. 故里の在りしの両親の形見家重ねよ我も造りけるかな (和火花)
- 九一. 古にしえの筑紫の国とば偲しは今ぞまさしくきわめ尽くせよ (和火花)
- 九二. かの貴女と七夕様にカスリ装て芝に歩ける恋木の路 (一路)
- 九三. 筑後なしみんなで食べようおいしかね口いっぱいに広がる甘さ (ぼんた)

ちっご短歌 応募作品一覧

九四. やつと来た熊野神社の眼鏡橋あの人と来てこれが二回目 (T.M)

九五. 恋のくに花火でプロポーズそれから本^の恋活恋の木神社も (ぽんた)

九六. 大川の流れて沿いて幾途世いくとせ繁栄さかえましませ我が故郷まちよ (和火花)

九七. 旧友に貰ったお茶のブランド名八女という字がなかなか読めず (S.O)

九八. 筑後市の名さえ知らずに逝きし父小二のわれは傘寿となれり (ちいちゃん)

九九. あかあかとちっごの夜空焦がしゆく大松明に願う豊穰 (S.K)

百. 羽のある犬が飛び交う筑後路を二人歩けば縁結ばれる (M.K)